

魔法陣に指をのせ、念じて。
そしてページをめくって。



魔法使いの仕事は過酷です。
ですからどうせ魔法使いになるの
ならつよい魔法使いになった方がよ
いと思います。

魔法の勉強は教科書にお任せし
て、あまりつよくない魔女である私
からは少しだけ、アドバイスのよう
なものを贈らせてもらいますね。ち
よっとした助言とおまじないです。



ひとりの先輩魔女より

この本を手にとれたということは、あなたは魔法使いになる素質を持っているということですよ。もしもかするとすぐに修業中なのかもしれませんね。

あらわれたそれはあなたの使い魔の素です。これを生かすも殺すもあなた次第。私からのプレゼントです。受け取ってくださいね。

使い魔を生かして育てていくためには、あなたは信じなくてはなりません。「何を？」と思いましたか？

あなたが信じるべきはあなたの持っている能力の高さです。

ええ、あなたは能力が高い。
この本を手取るためにはいくつかの条件をクリアする必要があります。それをあなたはクリアした。充分な力です。

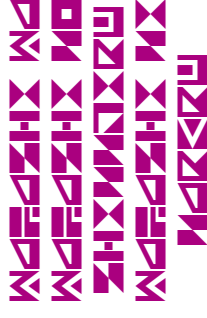


あなたはあなたの能力を信じ、魔法を使いこなしてください。そして使い魔をそばに置いてあげてください。まだ使い魔の「素」です。弱い存在です。あなたが守ってあげないといけない魔はあっという間に消えてしまうでしょう。

使い魔をそばに置いておくと魔力が増幅します。

そばに置くためにはこの本ごと持ち歩いてもいいですよ、ときどき強い魔のことを思い出すくらいでも大丈夫です。あなたが思うとき、使い魔はあなたのそばにいます。成長すれば逆にあなたを守ることもあるでしょう。

もしあなたがまだ魔法の勉強を始めていないなら、ちょっと難しい課題だったかもしれません。そんなあなたにも使える呪文を差し上げましょう。下に記した魔法の言葉を読み上げてください。それは音となり響くことで力を持ちます。



魔女からの助言は以上です。
いつかどこかでお会いしましょう。

著：氷砂糖
2019.06.08